

令和2年度 研究開発評価シンポジウム

研究開発戦略の立案と研究開発評価のあり方

～組織の目標・戦略から具体的な研究実施までの連結～

趣旨説明

林 隆之
(政策研究大学院大学)

文部科学省研究開発評価シンポジウムとは

- 研究開発評価に関する国の指針
 - 「国の研究開発評価に関する大綱的指針」（内閣総理大臣決定）
 - 「文部科学省における研究及び開発に関する評価指針」（文部科学大臣決定） ほか各府省指針
- 評価指針の認知向上、大学・研究機関の研究評価の課題や実践例の共有のために、シンポジウムを定期的を開催。
- 最近のテーマ
 - 平成29年「若手研究者の育成・支援を推進する評価」
 - 令和元年「大学における研究活動の組織化・拠点化と研究開発評価」
- 今回のテーマ
 - 「研究開発戦略の立案と研究開発評価のあり方 ～組織の目標・戦略から具体的な研究実施までの連結～」

テーマ「研究開発戦略の立案と研究開発評価のあり方」

- 大学や国立研究開発法人に研究経営の高度化が求められている中で、いかにして、研究に関する組織的な目標や戦略を形成し、それらを部局や個々の研究者の多様な研究活動と連結させていくか。
- 大学の組織としての研究戦略の歴史的展開
 - OECD(2004,2005), *University Research Management*.等が、大学に組織的な研究戦略が必要となってきた状況を説明。
 - 2002年～ 各種の組織単位の競争的資金の開始（21世紀COE等）
 - 2004年～ 国立大学や公立大学の法人化による組織目標の明確化
 - 2013年頃～ URA等の体制整備
 - 第5期科学技術基本計画（2016年～）では「大学改革」が項立て
 - ▶ 「大学は、教育や研究を通じて社会に貢献するとの認識の下、抜本的な大学改革を推進していくことが求められる。具体的には、大学改革の要である学長のリーダーシップに基づくマネジメントを確立し、教職員が一体となった大学運営を可能にする改革を進めつつ、組織全体における適切な資源配分（ポートフォリオ・マネジメント）を通じた経営力の強化、インスティテューショナル・リサーチ（IR）及び企画調査分析体制の強化、教育研究組織の大胆な再編や新陳代謝、（中略）などを進める必要がある。」
 - さらに、第6期案では、Society5.0の実質化・トランスフォーマティブイノベーションなど、分野を超える複合的な課題の中での大学の役割にも期待。
 - 国立大学は第4期中期目標・計画（さらには独自戦略）の策定が目の前。

根本的な難しさ

- 大学では個々の研究者は分散した活動を行う。その中で、いかに組織としての研究戦略を形成し実現するか。
 - 研究者が個々の知的関心に基づいて活動を行うゆえに、新たな発想を伴う多様な研究が生まれる。研究の方法だけでなくタイムスケールも多様。
 - その中で組織としての戦略を形成する必要。
 - 個々の多様な活動を把握して、それを支え促進する研究環境や「場」を組織として形成？
 - 組織として必要な方向へ緩やかに誘導（産学連携・地域連携・国際化・学際化など）？
 - 組織としての戦略的な重点領域の設定？
 - 法律等で定められた目標期間（6年等）のタイムフレームの中で、目標・計画を設定する必要？

- 本日の論点

- 研究に関する長期や短期の目標・戦略をいかにして、どのような内容のものを形成するか。
- 組織内外の多様な研究活動の状況や内容をいかに把握し、それら活動を目標・戦略形成と連結させ、研究の推進をおこなうか。
- 目標の進捗管理や研究開発の実施・成果の状況をどのように分析・評価し、戦略作成・推進につなげるか。

- ご講演

- 立命館大学
- 熊本大学
- 九州大学／東京理科大

※ご講演への質問は随時Q&Aに書き込んでください。